



**長期休暇中はインシデントが増える！？**

～対策チェックリスト付～

長期休暇前後にやっておくべきセキュリティ対策

04

## はじめに

企業は業務の継続性を確保するため、長期休暇期間中の問題に対処できるよう対策を講じる必要があります。

特に、情報システム部門は、業務に関わるシステムの安全性やセキュリティの確保など企業の業務継続において極めて重要な役割を果たします。

長期休暇期間中は、システム管理者が不在、人員が少ないなど通常と異なる状況になるため障害やインシデントが発生した場合、対応に遅れが出てしまい、休暇明けからの業務に支障が出るリスクがあります。

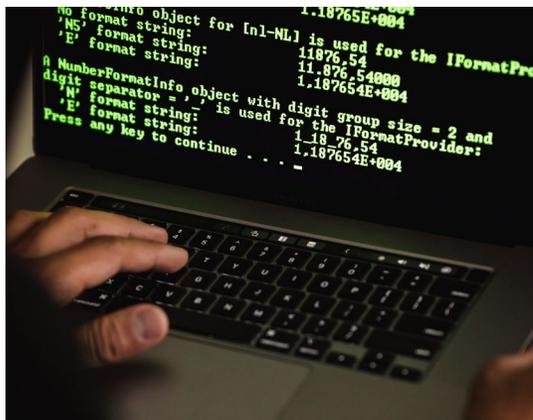
本資料では、このような状況にならないために長期休暇期間の前後に企業がやっておくべき対策について解説いたします。

尚、本資料は、内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター「春の大型連休に向けて実施いただきたい対策について」を基に作成しています。

## 長期休暇期間中に発生するリスクとは？

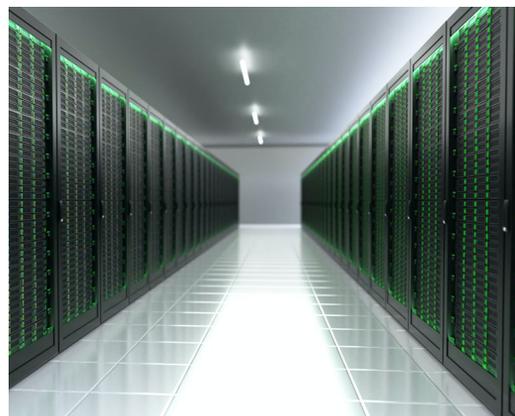
長期休暇期間中は、システム管理者が不在になる、人員が通常より少ない等いつもとは違う状況となり以下のようなリスクが発生します。

### サイバー攻撃



長期休暇期間中はセキュリティ担当者が不在となりやすい、休暇期間でメールが溜まり確認がおろそかになりやすいなどの背景から、サイバー攻撃が増加する傾向があります。

### システム障害



システム障害が起きた場合、迅速にリカバリーが行われないと、休暇明けに業務が再開できないリスクがあります。またサービスの停止により、お客様への影響が生じる可能性もあります。

### 人の不注意によるミス



休暇中で PC やスマートフォンを持ち帰ることによる紛失リスクや、休暇中の人員不在による業務負荷の増加によりミスが起きやすくなりインシデントが発生するリスクが高まります。

### インシデント発生時の対応の遅れ



長期休暇期間中は人員が少ないため、サイバー攻撃などの検知が遅れる場合も。攻撃の検知・対処が遅れて被害が拡大するリスクがあります。

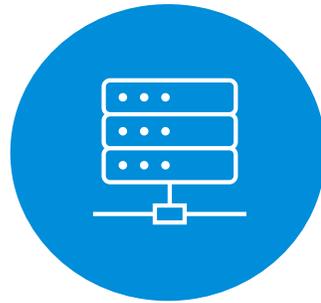
## 長期休暇に備えてやっておくべきセキュリティ対策

長期休暇におけるセキュリティ対策では、「休暇前」「休暇後」それぞれの対策・対応が重要です。

### 休暇前の対策



インシデント対応手順  
連絡体制の確認



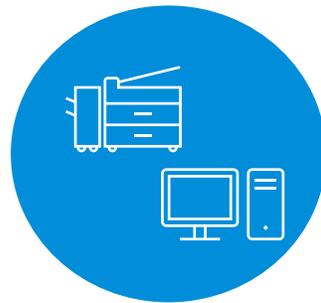
バックアップ対策



アクセス制御対策

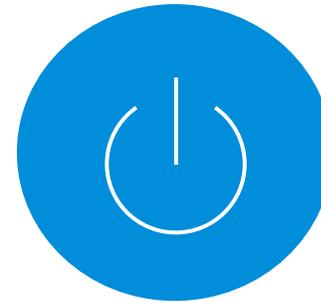


ソフトウェアの  
脆弱性対策



利用機器に  
関する対策

### 休暇明けの対策



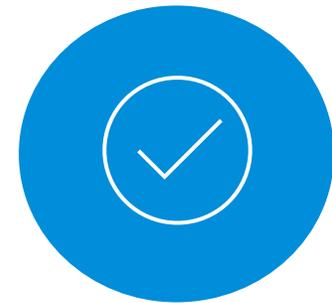
電源を落としていた  
機器に関する対応



ソフトウェアの  
脆弱性対策



不正プログラム  
感染の確認



各種ログの確認

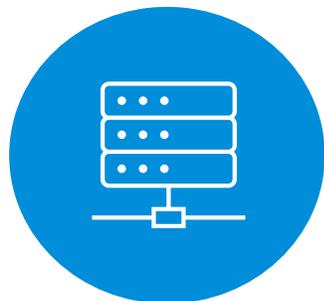
長期休暇期間中はサイバー攻撃を受ける可能性が高まります。休暇前には、あらゆるリスクに備えた対策を実施しておきます。

### インシデント対応手順 連絡体制の確認



- 休暇期間中の監視体制を確認
- システムアラート等の監視体制を強化
- セキュリティインシデント対応手順を確認
- 連絡体制を最新の組織に合わせて更新

### バックアップ対策



- 重要なデータや機器設定ファイルに対するバックアップ対策を実施
- バックアップデータはネットワークから切り離すなどの対策を検討

### アクセス制御対策



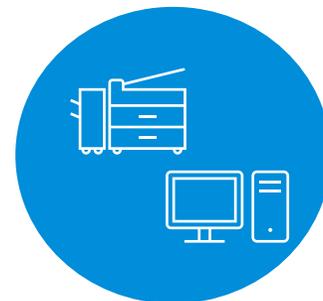
- アクセス権限の確認、多要素認証の利用、不要なアカウントの削除
- 利用者にパスワードが単純でないか確認
- 外部ネットワークからアクセス可能な機器へのアクセスは必要最低限に設定

### ソフトウェアの 脆弱性対策



- 脆弱性対策の状況を確認
- セキュリティパッチの適用・ソフトウェアのバージョンアップ
- 長期休暇期間中に公表された重要な脆弱性の対応体制を整える

### 利用機器に関する 対策



- 機器（サーバー、PC、通信回線装置等）のファームウェアを最新にアップデート
- 休暇中に使用しない機器の電源を落とす

## 休暇前のセキュリティ対策チェックリスト※

チェック項目	チェック
<b>長期休暇期間中のセキュリティインシデント発生時の対処手順及び連絡体制の確認</b>	
長期休暇期間中ではセキュリティインシデントをリアルタイムで認知しづらく対応が遅れがちとなるため、セキュリティインシデントに即応できるよう長期休暇期間中の監視体制を確認し、必要に応じ、システムアラート、各種ログ等の監視体制を強化すること	<input type="checkbox"/>
セキュリティインシデントを認知した際に迅速かつ円滑に対応することができるよう、セキュリティインシデントを認知した際の対処手順（事業継続計画等）の内容を再度確認すること	<input type="checkbox"/>
セキュリティインシデントを認知した際における連絡体制（情報セキュリティインシデントを認知した際における対応等の決定権者及び担当者等の連絡先、連絡が取れなかった場合の予備の連絡先）が最新の情報に更新されていることを確認すること	<input type="checkbox"/>
システムベンダ（保守業者を含む）、回線業者、外部サービス提供者、データセンター事業者等のサポート窓口やサプライチェーン企業の営業状況、連絡先（夜間・休日等の通常営業時間帯以外の連絡先を含む。）等を確認すること	<input type="checkbox"/>
情報システムを利用する職員等に対して、セキュリティインシデントを認知した場合の報告窓口を周知すること	<input type="checkbox"/>
<b>バックアップ対策の実施</b>	
システムの不具合やランサムウェア等の不正プログラムによるデータ破壊に備えて、重要なデータや機器設定ファイルに対するバックアップ対策を実施するとともに、最新のバックアップが確実に取得されていること、バックアップデータから実際に復旧できることを確認すること	<input type="checkbox"/>
バックアップデータはネットワークから切り離し、変更不可とするなどの対策を検討すること	<input type="checkbox"/>
<b>アクセス制御に関する対策</b>	
この機にアクセス権限の確認、多要素認証の利用、不要なアカウントの削除等により、本人認証を強化するとともに、個々の利用者にパスワードが単純でないか確認させること	<input type="checkbox"/>
インターネット等外部ネットワークからアクセス可能な機器へのアクセスは必要なものに限定し、管理機能、ポート（例えば、ファイル共有サービス等によく利用される137(TCP/UDP)、138 (UDP) 、139(TCP)、445(TCP/ UDP)、リモートデスクトップ等で利用される 3389(TCP)など）及びプロトコルを不必要に開放していないことを確認すること	<input type="checkbox"/>

※ 内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター「春の大型連休に向けて実施いただきたい対策について」を基に作成

## 休暇前のセキュリティ対策チェックリスト※

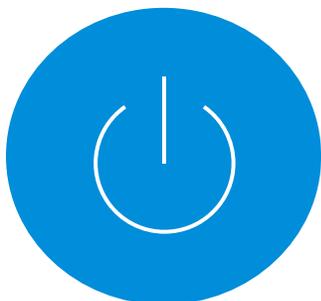
チェック項目	チェック
<b>ソフトウェアに関する脆弱性対策の実施</b>	
脆弱性対策の状況を確認し、必要に応じてセキュリティパッチの適用やソフトウェアのバージョンアップを行うとともに、直ちに実施することが困難な場合はリスク緩和策を講ずること	<input type="checkbox"/>
休暇期間中に公表された重要な脆弱性情報について遅滞なく確認、対応の検討が行われる体制としておくこと	<input type="checkbox"/>
セキュリティパッチの適用やソフトウェアのバージョンアップについて、やむを得ず長期休暇期間前に実施できない場合、長期休暇期間明け直後は業務システムへのアクセス集中が予想されることから、事前に実施時期のスケジュールを検討すること。	<input type="checkbox"/>
<b>利用機器・外部サービスに関する対策</b>	
外部からの不正アクセスを防止する観点から、機器（サーバ、パソコン等、通信回線装置、特定用途機器（防犯カメラなど）等）のファームウェアを最新のものにアップデートすること。	<input type="checkbox"/>
長期休暇期間中に使用しない機器の電源を落とすこと。また、機器に自動起動機能を設定している場合は、長期休暇期間中の設定の要否を検討すること。	<input type="checkbox"/>
この機に使用しない外部サービスの無効化の要否を検討すること。	<input type="checkbox"/>

※ 内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター「春の大型連休に向けて実施いただきたい対策について」を基に作成

## 休暇明けの対策

休暇明けは、サイバー攻撃やウィルス感染・脆弱性への対応有無を確認した上で通常業務に戻していきます。

### 電源を落としていた 機器に関する対応



- 休暇中に電源を落としていた機器は、端末起動後、最初にアンチウイルス当の定義ファイルを確認
- 最新の状態になっていない場合は、更新してから、利用を開始

### ソフトウェアの 脆弱性対策



- 長期休暇期間中における脆弱性情報を確認
- 必要に応じてセキュリティパッチの適用やソフトウェアのバージョンアップを実施

### 不正プログラム感染の 確認



- 休暇中に持ち出しが行われていた PC 等が不正プログラムに感染していないか確認

### 各種ログの確認



- サーバー等の機器に対する不審なアクセスがないか、ログやアラートで確認
- 不審なログが記録されていた場合は、早急に調査

## 休暇明けのセキュリティ対策チェックリスト※

チェック項目	チェック
長期休暇期間中に電源を落としていた機器に関する対策	
長期休暇期間中に電源を落としていた機器は、不正プログラム対策ソフトウェア等の定義ファイルが最新の状態となっていないおそれがあることから、端末起動後、最初に不正プログラム対策ソフトウェア等の定義ファイルを確認し、最新の状態になっていない場合は更新作業を実施してから、利用を開始すること。	<input type="checkbox"/>
ソフトウェアに関する脆弱性対策の実施	
長期休暇期間中における脆弱性情報を確認し、必要に応じてセキュリティパッチの適用やソフトウェアのバージョンアップを行うとともに、直ちに実施することが困難な場合はリスク緩和策を講ずること。	<input type="checkbox"/>
不正プログラム感染の確認	
長期休暇期間中に持ち出しが行われていたパソコン等が不正プログラムに感染していないか、不正プログラム対策ソフトウェア等で確認を行うこと。	<input type="checkbox"/>
サーバ等における各種ログの確認	
サーバ等の機器に対する不審なアクセスが発生していないか、VPN、ファイアーウォール、監視装置等ログやアラートで確認すること。もし何らかの不審なログが記録されていた場合は、早急に詳細な調査等の対応を行うこと。	<input type="checkbox"/>

※ 内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター「春の大型連休に向けて実施いただきたい対策について」を基に作成

## 従業員向けのセキュリティ対策

従業員にも、長期休暇期間中の前後に適切なセキュリティ対策を行ってもらうよう事前に周知しておきます。

また、この機会に改めて社内のセキュリティポリシーを理解してもらい、セキュリティ意識を高めてもらいましょう。

### 緊急連絡先の確認



- 休暇中にインシデント等が発生した場合の緊急連絡先や報告フローを周知する

### PC・スマホ等の持ち出しルールの確認



- 長期休暇期間中に PC やスマホ等の機器や記録メディア等の持ち出しが必要な場合、持ち出しルールを再度通知する

### 休暇明けメール開封の注意喚起



- 不審な添付ファイルを開いたり、リンク先にアクセスしたりしないよう注意喚起する
- 不審な点があれば、メールを開封する前に、電話等、別の手段で確認するなどの対応方法を周知

## エンドポイントマネージャー クラウド版でできる対策

---

## デバイスの所在を問わず、管理下のデバイスの最新情報を自動取得し、一覧で表示

デバイスを特定し、1Click で詳細の資産情報の確認が可能。自動取得できない項目は、任意項目として管理できます。

LANSCOPE リスト レシビ モニター レポート ログ ルール

デバイス アプリ プロファイル アラート

ネットワーク全体 iOS Android Windows macOS 周辺機器

キーワード検索 (例: 営業 iPhone)

デバイスの追加 周辺機器の追加 インストール待ちデバイス

管理...	デバイスグループ	デバイス管理名	使用者名	OSタイプ	OSバージョン	電話番号	デバイス
9	総務課	iPhone_000000026	森 太郎	iOS	14.4	080xxxxxxx	iPhone
10	営業1課	iPhone_000000029	別所 哲郎	iOS	13.2	080xxxxxxx	iPhone
11	営業1課	Surface Pro 5_00000000...	吉田 勝平	Windows	Windows 10 Pro 10.0.17134	090xxxxxxx	Surface
12	営業1課	Surface Pro 5_00000000...	加藤 信也	Windows	Windows 10 Pro 10.0.17134	090xxxxxxx	Surface
13	営業1課	404KC_0000000023	石井 健二	Android	9	080xxxxxxx	404KC
14	営業2課	404KC_0000000018	平尾 晋作	Android	9	080xxxxxxx	404KC
15	営業部	...	...	...	...	...	...
16	営業部	iPhone_000000030	佐藤 新	iOS	14.2	080xxxxxxx	iPhone
17	営業1課	iPhone_000000031	鈴木 一	iOS	14.1	080xxxxxxx	iPhone
18	営業2課	iPhone_000000032	佐竹 信弘	iOS	13.5.1	080xxxxxxx	iPhone
19	営業2課	iPhone_000000033	石川 忍	iOS	14.4	080xxxxxxx	iPhone
20	営業2課	Surface 3_0000000054	石川 忍	Windows	Windows 10 Home 10.0.10240		Surface
21	営業1課	iPad_000000034	小林 哲司	iOS	14.2	080xxxxxxx	iPad
22	営業1課	Surface 3_0000000051	荒城 太郎	Windows	Windows 10 Home 10.0.10240		Surface
23	営業1課	Surface 3_0000000047	MO三郎	Windows	Windows 10 Pro 10.0.19041		Surface
24	営業1課	Surface 3_0000000048	MO花子	Windows	Windows 10 Pro 10.0.19041		Surface
25	営業1課	Surface 3_0000000049	MO二郎	Windows	Windows 10 Pro 10.0.19041		Surface

Click!!

固定列を設定し、ストレスのない横スクロールを実現。表示する項目・順番も並び替え可能。

Windows Surface Pro 5\_0000000044 - デバイス詳細

管理No. 11

デバイスグループ	使用者名	電話番号	ログオンユーザー名	最終稼働
営業1課	吉田 勝平	090xxxxxxx	-	15時間前

取得日時: -

管理情報

デバイスグループ

システム

OSバージョン  
Windows 10 Pro 10.0.17134

OSアーキテクチャ  
64ビット

ネットワーク

セキュリティ

インストールアプリ

Microsoft Office

CPU名  
Intel(R) Core(TM) i7-3770 CPU @ 3.42GHz

CPU周波数  
3.40 GHz

位置情報

メモリ  
15.89 GB

操作ログ

レポート

ドメイン・ワークグループ名  
WORKGROUP

ログオンユーザー名

アラート

リモート操作

ログオンユーザーSID  
S-1-5-21-984867327-8815634417-5210944867-5132

クライアント

ハードウェア

1Clickでデバイスの詳細情報を確認

## 「どの部署の」「誰が」「いつ」「何をしたのか」をリアルタイムに取得

取得した操作ログは2年間保存され、検索によるログの抽出と CSV ファイルによる出力が可能。ログ運用オプションの導入で最大5年保存されます。

The screenshot shows the LANSCOPE interface with a search filter set to 'MO一部'. The log list includes various file operations and security alerts. Two pop-up alerts are visible:

- ファイル操作アラート**: 実行したファイル操作は、社内ルールに違反しています。 [抵触時のファイル名] 2020/08/18 14:22:23
- アプリケーション禁止**: 起動しようとしたアプリケーションは、社内ルールによって禁止されています。 [抵触時のアプリ] 2020/08/18 14:27:25

違反操作があった場合は、リアルタイムに警告通知が可能

### 取得できる操作ログ

#### ログオン・ログオフログ

電源ON・OFF・ログオン・ログオフのログを取得できます。

#### ウィンドウタイトルログ

デバイス上での閲覧画面（ウィンドウタイトル・アプリ名）のログを取得できます。

#### ファイル操作ログ

デバイス上でのファイル操作（ファイル・フォルダのコピー／移動／作成／上書き／削除／名前の変更）でのログを取得できます。

#### Web アクセスログ※1

Webサイトの閲覧、Webメールやクラウドストレージのアップロード／ダウンロードログを取得できます。

#### プリントログ

印刷状況を記録し、ドキュメントやプリンター、PCごとに印刷枚数を集計できます。

#### 周辺機器・通信機器接続ログ※2

USB メモリなどの周辺機器、Wi-Fi・Bluetooth などへの接続／切断などのログを取得できます。

#### アプリ稼働・アプリ通信ログ※3

バックグラウンドで稼働しているアプリ情報、通信元／先のIPアドレスやポート番号、アプリのハッシュ値を取得できます。

※1 macOS は Web サイトの閲覧ログのみ対応しています。また対応ブラウザは Microsoft Edge・Google Chrome・FireFox・Safari です。

※2 macOS は周辺機器接続ログのみ対応しています。

※3 外部脅威調査オプションの導入が必要です。尚、macOS は非対応です。

## 休暇前に改めて、パスコードの設定ルールを見直してセキュリティを強化！

The screenshot shows the password policy settings for an iOS or macOS device. The settings are as follows:

- パスワードの最小文字数\***: 9文字
- 単純値 (aaaa、1234 など)**:  禁止する
- 英字と数字**:  必須にする
- 英数字以外の文字の最小文字数**:  設定する
- 最小文字数\***: 4文字
- パスコードの有効期間**:  設定する
- 有効期間 (日) (1 ~ 730 日)\***: 90
- 以前使用したパスコードの再**:  禁止する
- 再使用禁止回数\***: 2回
- パスワード入力連続失敗によるデバイス初期化**:  初期化する
- 連続失敗回数\***: 5回

Red dashed boxes highlight the minimum password length and the device initialization settings. A red callout bubble points to the password length setting, and another points to the device initialization setting.

パスコードの文字列や有効期限の設定が可能

この設定を有効にすることで、オフライン時でもワイプが実行されます。Wi-Fi モデルのデバイスにも有効！

### iOS・macOS の設定項目

パスコードの最少文字数  
単純値 (aaaa、1234など) を禁止  
英字と数字が必要  
英数字以外の文字の最少文字数  
パスコードの有効期間  
以前使用したパスコードの再使用を禁止  
パスコード入力連続失敗によるデバイス初期化\*<sup>1</sup>  
デバイスロック開始までの最大許容時間  
画面ロック解除時のパスコード要求までの最大許容時間  
ログイン失敗後の待ち時間\*<sup>2</sup>  
パスワードリセットの強制\*<sup>2</sup>

### Androidの設定項目

パスワードの最少文字数  
使用しなければならない文字の種類  
パスワードの有効期間  
パスワードの有効期限を事前の通知  
以前使用したパスワードの再使用を禁止  
以前使用したパスワードの再使用を禁止  
パスワード入力連続失敗によるデバイス初期化  
スリープ開始までの最大許容時間

\*<sup>1</sup> macOS はアカウントのロックが行われます。

\*<sup>2</sup> macOS のみ対応しています。



### パスワードポリシー設定の重要性

パスワードを設定していない場合、画面ロックの解除は容易です。情報漏洩を防ぐためにも、利用者にパスワードの設定条件を委ねるのではなく、会社のポリシーをデバイスに設定することは、紛失対策の基本と言えます。



Android10以降のデバイスの場合、Android Enterprise の利用が必要です。

## 紛失リスクに備える事後対策：位置情報の確認※・リモートロック・ワイプ

万が一休暇中に PC を紛失した際も位置情報から所在確認  
遠隔でリモートロックやワイプを実行し情報漏洩を防止！



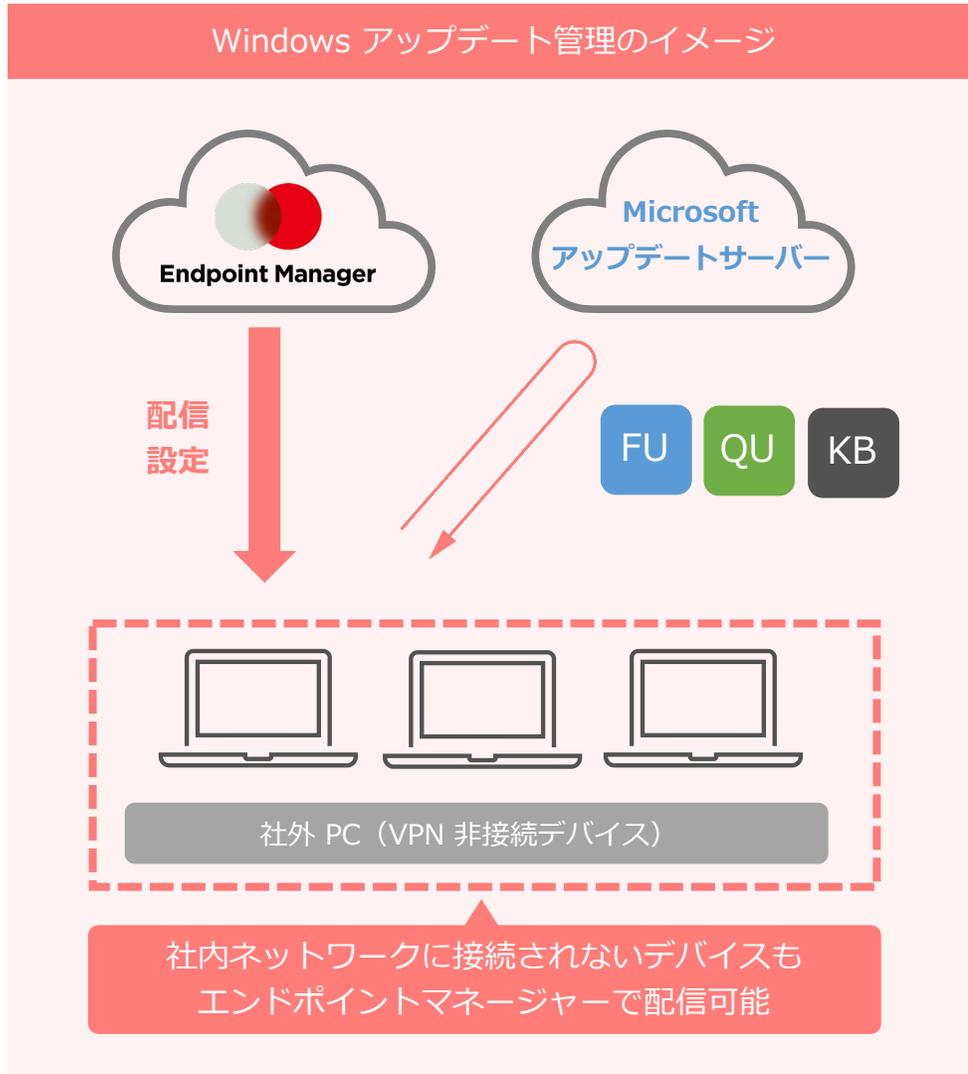
※ 位置情報の取得のためにはデバイス側に必要な設定があります。詳細はお問い合わせください。また位置情報の取得精度はデバイスに依存します。

※ OSによってリモートロック・ワイプの仕様は異なります。Windows Server OS はリモートロック・ワイプ機能に対応していません。

※ Windows Server OS・macOS は位置情報取得機能には対応していません。

※ Windows はスリープ状態の場合、位置情報が取得できません。

# 休暇前後に Windows アップデートの適用状況を確認し、脆弱性の有無を把握



LANSCOPE リスト レシビ モニター レポート ログ ルール

ログアラート 利用状況 Windows アップデート

ネットワーク全体 集計日時: 2023/06/16 09:08:38 設定状況

OSのサポートが終了しているデバイス  
Microsoft社の製品サポートが終了しているデバイスを確認して対策できます。

サポート終了 ● サポート終了間近

Windows 10	8台
Windows Server 2012...	1台
Windows Server 2016	2台
Windows Server 2019	すべてサポート中です

11台

月例パッチ (サーバー) が未適用のデバイス  
サーバー用の月例パッチが未適用のデバイスを確認して対策できます。

最新 (2023/06/11)

● パッチ未適用

Windows Server 2019	1台
Windows Server 2016	すべて適用済みです
Windows Server 2012...	すべて適用済みです

1台

月例パッチ (クライアント) が未適用のデバイス  
クライアント用の月例パッチが未適用のデバイスを確認して対策できます。

最新 (2023/06/11)

● パッチ未適用

Windows 10	6台
------------	----

6台

← 月例パッチの詳細

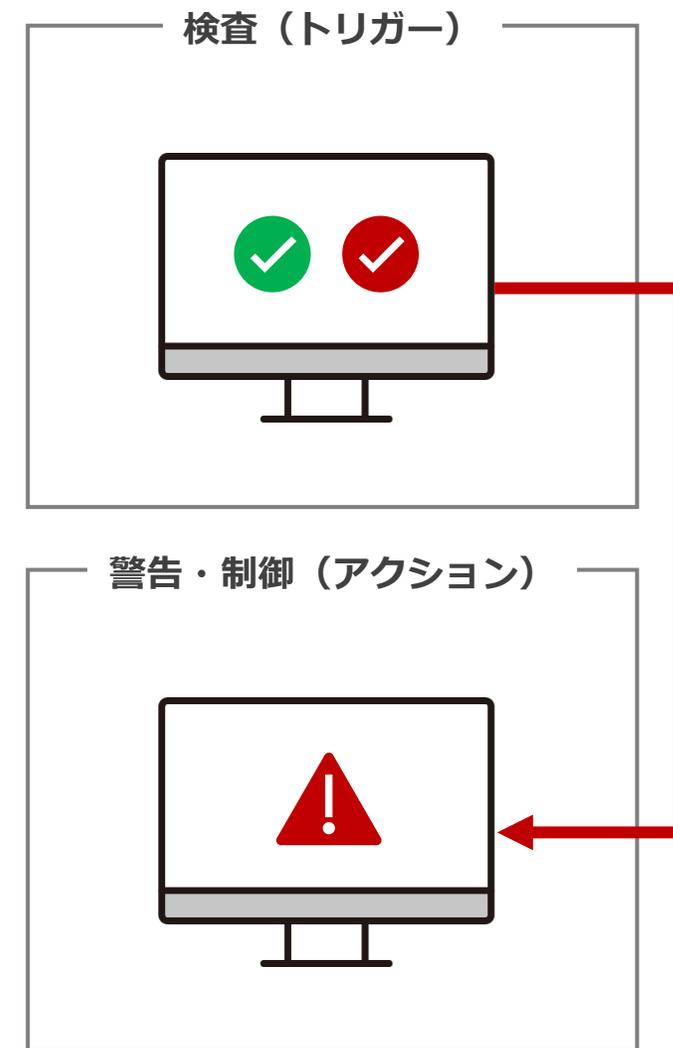
ネットワーク全体	最新 (2023/06/11)	サーバ	クライアント	適用済みのデバイスも表示する	検索	
X 4件も選択中						
インストール設定						
カテゴリ	適用された月例パッチ	管理No.	デバイスグループ	デバイス管理名	OSバージョン	登録日時
未適用	2023/06/13	20	営業2課	Surface_3,0000000054	Windows 10 Home 10.0.19240	2023/07/29 09:07:29
未適用	2023/06/13	22	営業3課	Surface_3,0000000051	Windows 10 Home 10.0.19240	2023/07/29 08:23:29
未適用	2023/06/13	11	営業1課	Surface Pro_5,0000000044	Windows 10 Pro 10.0.17134	2023/07/29 08:23:27
未適用	2023/06/13	12	営業1課	Surface Pro_5,0000000045	Windows 10 Pro 10.0.17134	2023/07/29 08:23:27
未適用	2023/06/13					

1Clickで未適用デバイスを把握し、  
アップデート配信が可能

「古い OS を利用していないか」「セキュリティソフトがインストールされているか」など  
検査項目に違反があった場合に、警告・制御・特定アプリの起動を自動実行

▼トリガー・アクション一覧

	トリガー名	概要
検査 (トリガー)	Windows OS バージョン検査	利用している OS バージョンが指定したバージョン外の場合に検査違反と判定します。
	Windows セキュリティパッチ検査	指定したセキュリティパッチがインストールされていない場合に検査違反と判定します。
	アプリインストール検査	指定したアプリがインストールされていない場合に検査違反と判定します。
	アプリバージョン検査	インストールされているアプリが指定したバージョン外の場合に検査違反と判定します。
	プロセス起動検査	指定したアプリが起動していない場合に検査違反と判定します。
	特定宛先への NW 疎通検査	指定したネットワークと疎通が取れていない場合に検査違反と判定します。
警告/制御 (アクション)	不適合警告	警告ダイアログを表示し、警告内容と必要な設定内容などを案内します。
	IP アドレス指定制御	あらかじめ指定した IP アドレス以外への接続を禁止できます。
	ドメイン名指定制御	あらかじめ指定したドメイン名以外への接続を禁止できます。
	特定 URL ブラウザアクセス	ブラウザを起動して、指定した Web サイト が表示されます。
	指定アプリ起動	PC にインストールされているアプリを実行します。



AI を活用した次世代型アンチウイルス製品と連携し、  
操作ログから、未知・亜種のマルウェア感染原因を特定



AI を活用した「予測脅威防御」で、マルウェアの特徴点を見つけて実行前に検知・隔離します。エンドポイントマネージャー クラウド版と連携することで、マルウェアに感染してしまった直前の操作を特定。原因の追求や再発防止に活用できます。

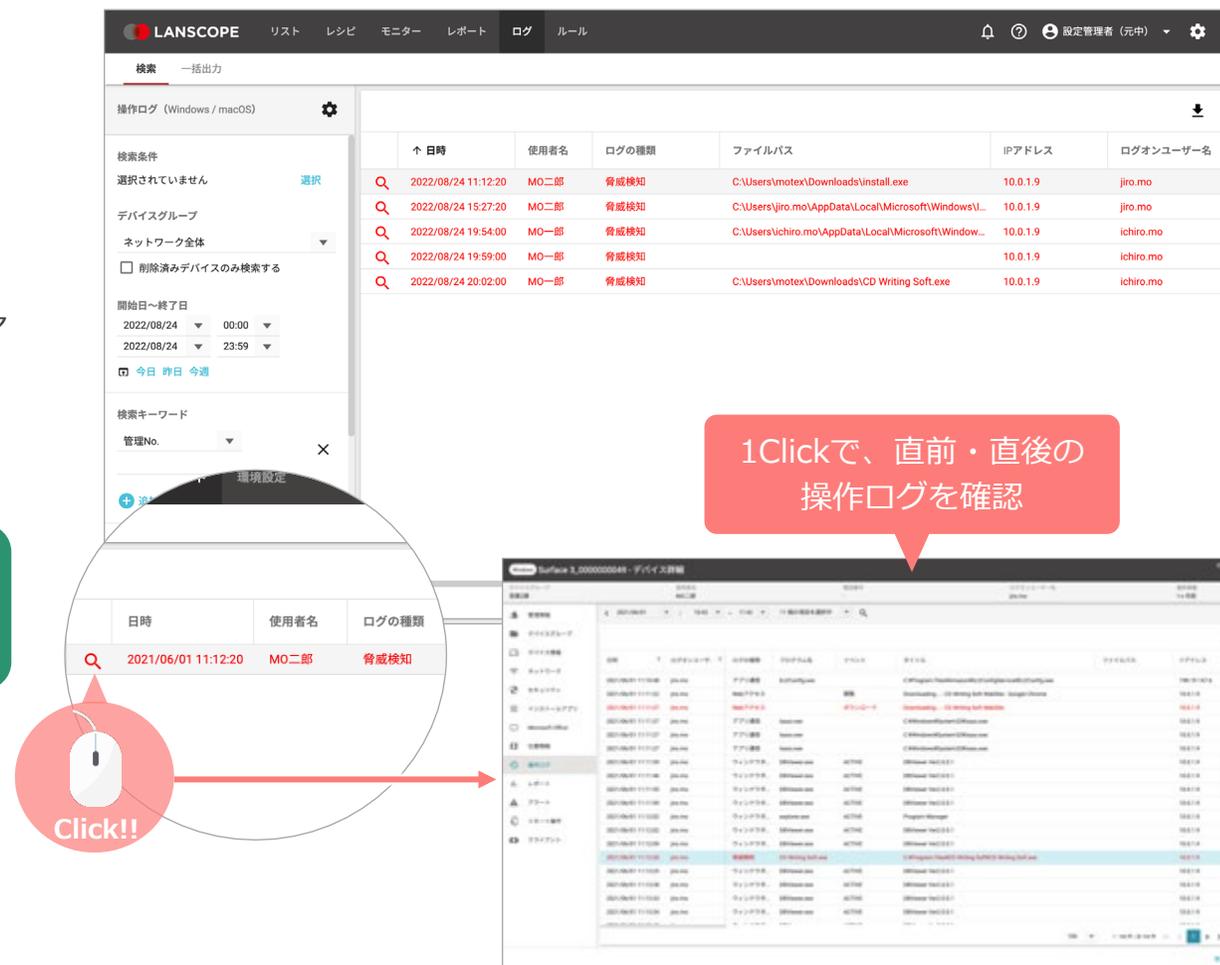
検知率は99% \*  
未知のマルウェアも  
検知・隔離

PC への負荷が小さく  
快適なパフォーマンス  
を發揮

クラウド型のため、  
サーバー構築や  
メンテナンスも不要

<https://www.lanscope.jp/cpms/>

\* 2018 NSS Labs Advanced Endpoint Protection Test / Unit 221B 調べ



日時	使用人名	ログの種類	ファイルパス	IPアドレス	ログオーナー名
2022/08/24 11:12:20	MO二郎	脅威検知	C:\Users\motex\Downloads\install.exe	10.0.1.9	jiro.mo
2022/08/24 15:27:20	MO二郎	脅威検知	C:\Users\jiro.mo\AppData\Local\Microsoft\Windows\I...	10.0.1.9	jiro.mo
2022/08/24 19:54:00	MO一郎	脅威検知	C:\Users\ichiro.mo\AppData\Local\Microsoft\Window...	10.0.1.9	ichiro.mo
2022/08/24 19:59:00	MO一郎	脅威検知		10.0.1.9	ichiro.mo
2022/08/24 20:02:00	MO一郎	脅威検知	C:\Users\motex\Downloads\CD Writing Soft.exe	10.0.1.9	ichiro.mo

# Endpoint Manager Cloud

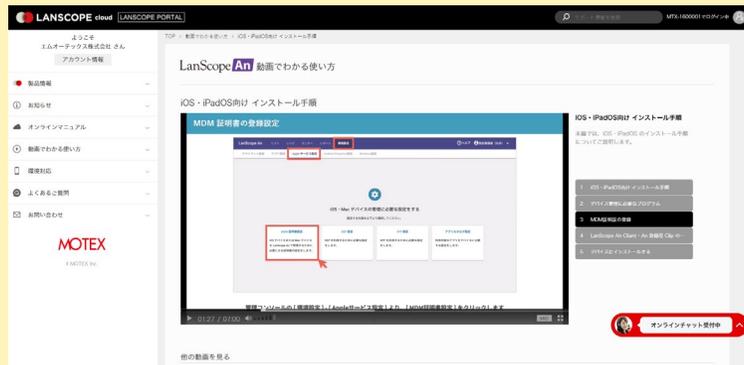
## 60日間無料体験キャンペーン中

エンドポイントマネージャー クラウド版の体験版は、設定したポリシーや取得した情報を含め、そのまま製品版へのデータ引き継ぎが可能です。また体験版利用中も、弊社サポートセンターにお電話やメールで問い合わせが可能。体験期間中は、マニュアルやオンラインで学べるトレーニング動画も公開しています。

### ●各種マニュアル・問い合わせが可能



### ●動画で設定方法を説明



<https://go.motex.co.jp/l/320351/2017-06-21/c55z>



#### 製品に関するお問い合わせ

■ 営業本部

大阪本社 06-6308-8980

東京本部 03-3455-1811

名古屋支店 052-253-7346

九州営業所 092-419-2390

E-mail [sales@motex.co.jp](mailto:sales@motex.co.jp)

#### ご購入後の製品利用に関するお問い合わせ

サポートセンター 0120-968995（携帯・PHSからは06-6308-8981）

お電話受付時間 9:30～12:00/13:00～17:30（平日、祝祭日除く）

Email お問い合わせ [support@motex.co.jp](mailto:support@motex.co.jp)

- ・記載の会社名および製品名・サービス名は、各社の商標または登録商標です。
- ・製品の仕様・サービスの内容は予告なく変更させていただく場合があります。
- ・MOTEX はエムオーテックス株式会社の略称です。